

鉄砲洲神社 論語素読 解説
(平成 24 年 2 月 17 日)

子罕第九

【27】子曰く、歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る。

今日の寒さのような寒気が厳しい時に、樹木でいえば松や柏（ひのき）が最後の最後に枯れてゆく。孔子が言うには、緑が豊だと思っていた山も寒気が厳しいとドンドン枯れていくが、最後まで残るのは松と柏だけ。翻って、人間はどうであろうか、人間の道を全うしている人達が最後まで残るものだが、あなたはどうか？

寒気が厳しい時に早めにギブアップするか、または最後まで頑張っているか、自問自答して下さい。

【28】子曰く、知者は惑わず。仁者は憂えず。勇者は懼れず。

孔子が言うには、知恵がある者は何か問題がある時には迷わない、徳のある人は心配しない、勇気のある人はこわがらない。

東日本大震災で考えて見ると、前に申し上げましたが、NHK の最初の頃の報道で、即座に逃げて下さいと言ったアナウンサーは、その後の画面には現れなくなると云います。元厚生大臣の舛添さんが書いた本で、当時の総理大臣は、ほとんど重要な話を握りつぶし、また政府がどういう嘘をついたかと事細かに書いてありました。確か『日本政府のメルトダウン』というタイトルです。

知恵のある人は有事の際、政府が嘘をついても、迷わずに自分の取るべき道を判断して決めていくでしょう。

渋沢栄一さんが言っているのですが、西郷隆盛のように徳のある人は自分の身を投げ出して、若者達に自分の身を捧げたという事例のように、徳のある人は後世に名を残すでしょうと、理解をして頂ければ良いでしょう。

勇者はこわがらないと云うのは東日本大震災でゆけば、津波が来ても放射能が降って来ても何するものぞ、という匹夫の勇が多かったのでしょうか。ただ津波の場合は、津波が来ても分からずに巻き込まれてしまった人が大半で、大丈夫という勇を持った方は少なかったのではという気がします。勇者は懼れずというのは、逆に臆病であれと理解しています。臆病であれば本物の勇気をもって逃げる事ができると考えています。

【29】子曰く、与に共に学ぶべし、未だ与に道に適くべからず。与に道に適くべし、未だ与

に立つべからず。与に立つべし、未だ与に權るべからず。

今でいけば、松下幸之助の政経塾でしょうか。野田総理は一期生ですが、一緒に政経塾に入って勉強をした。一緒に机を並べて学ぶことは出来るが、同じ様に自民党、民主党で行くかと言えはそうではない。皆それぞれに色々な政党に行き、バラバラの道に行く。同じ道に行くのは少なからう。同じ道、同じ民主党の仲間でも、同じポジションになる事はない。同じ大臣のポストにつく事が出来ても、同じ利権は求める事が出来ない。

今のところ政経塾の出身者で総理大臣になったのは一人だけです。しかし今の政調会長はなるかも知れません。でも一緒に総理大臣にはなれません。

【30】唐棣の華、偏として其れ反せり。豈 爾を思わざらんや。室 是れ遠しと。子曰く、未だ之を思わざるなり。夫れ何の遠きことか之れ有らんと。

これは詩を引用して、孔子が艶のある話をしました。恋人の話です。唐棣の華は、すももです。すももの花がヒラヒラと翻っている。恋するあなたは遠くに行っていて、あなたのいる所は遠い。孔子が言うには、なかなか会う事が出来ないと愚痴をこぼすのは、真剣に恋人の事を思っていない証拠で、遠いと思っても相手の事を切実に思っていれば千里の道も遠いとは感じない。本気で思えば得られるが、思わなければ得られないと理解して下さい。

人類の発明で最大のものは、通貨だと私は思っています。他にも火やエネルギーなど沢山ありますが、通貨を発明してから人類の文明文化が発達したと思っています。

文明法則史学によると、大きな文明は一千年周期で西洋から東洋に移ると云います。その考え方からすると、今は大きな転換期に来ているのではと感じます。人間が発明した通貨制度が減びる大きな転換期にきているだろうと思っています。通貨の次にくる決算手段は、はっきり分かりませんが、現代の日本の介護の仕組みの中に、そのヒントがあるかも知れないと感じています。お金のかわりにポイントというのを使い始めている。それが通貨に変わる先駆けではないだろうかと感じます。

人間の欲望がゆきつく所まで来ているので、アメリカがインフレーターゲットを2%というのを出しまして、日本もインフレーターゲットを1%というのを出しました。日本もインフレーターゲットを始めるとドンドン経済が悪化をしていく。そうすると、経済が悪化をするのと同時に自然災害が発生するのではないか。それらが同じ比重で起きて来ている。今、最も危ないのは地震です。前から申し上げていますがけれど、どうぞ準備は怠らない様にして下さい。